

リモートによる音楽科演習の一考察 -Zoomを使った音楽の学修と評価-

日高 まり子

1. はじめに

令和2年4月7日に政府より緊急事態宣言が発令され、コロナ禍において、大学における講義においても対面授業からオンライン授業への突然の転換せざるを得ない状況となり、音楽科の表現活動には様々な制限が余儀なくされた。どのように講義内容を構成し、講義を展開していくのか、日々、教材作成に追われることとなった。Zoomを使ったシステムなどへの対応ができるのだろうか、音楽科においてオンラインの講義・演習は可能なのであろうか、音楽の本質をどのようにして伝えることができるのだろうか、様々な問いがある中、オンラインでの講義・演習を始めることになった。ここでは、今年度の講義や演習の学修の取組や評価の課題をまとめ、今後の音楽科の演習におけるオンライン指導の在り方を考察していく。

2. Zoomでの取り組み

(1) 宮崎国際大学の取り組み

本学においては、令和2年4月20日よりZoomによる双方向型オンライン授業をスタートさせた。それに先立ち職員へZoomについての研修が実施され、並行して学生に向け現地確認やコンピューター環境に関する調査も実施され、パソコンの貸し出しなど学生の受講環境を整え、それぞれがオンライン授業をスタートさせた。特に新1年生においてはアドバイザー教員のZoomでの個別面談や3年生のアドバイザーアシスタントによるメール等でのサポートを行った。学生全体にもオンライン授業フォローアップ調査なども実施され、不安感を少しずつ解消させながら講義を進めていった。6月1日より対面授業が実施され、向かい合い直接表現活動できる音楽の良さを感じていたが、7月27日より再びオンライン授業となり、前期試験はオンラインによるものとなった。

後期においては、順調に対面授業を実施していたが、1月より宮崎県内の新型コロナ感染者の増加のため再びオンライン授業となり後期試験もオンラインでの実施となった。学期末においては学生、教員それぞれに向けたコロナ禍における授業実施についてのアンケート調査がGoogleフォームにおいて実施され、その調査結果のまとめは本学ホームページ(令和3年2月22日)に公開された。

(2) 音楽科での取り組み

1) コロナ禍における表現活動の制約

対面授業においても歌唱活動、器楽活動(鍵盤ハーモニカ、リコーダー等)、グループ活動(合唱、合奏)の制約を受けながら活動の検討を重ねた。オンライン授業においては、音環境の問題が大きかった。表現活動において音楽を共有する困難さ、集団・個別の表現活動の困難さ、Wi-FiなどZoomでの授業における音を聴く環境に個人差が大きいこと、音声のタイムラグや画像配信の困難さなど、様々な制約を解決していかなければならなかった。「音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする」ことや「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感

性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う」という学習指導要領の音楽科のねらいをこれらの環境においてどのように実現させ体験させることができるのかを実践しながら取り組むことになった。また、講義資料など教材作成においてもオンラインにおける効果的な内容を工夫していくことが必要となった。今年度は著作権に関しては特例的に保証金額無償の認可があったが、インターネット教材や様々な教材を活用するにあたり著作権の課題も配慮していかなければならなかった。

2) 学ぶことの基本の再確認

学生はもちろんのこと、教員も初体験となるオンライン授業において、まず学びの意義について学生と認識を共有した。「何をどう学ぶのか」「自分の学びの課題を明確にする」「創造性を高めていく」など自己実現に向かう学びの探求について学生自身が取組についての認識を明確にすることから始めた。さらに音楽科の存在意義を考えると音楽の価値を共有していくことの大切さを伝えた。特に新1年生にとっては、大学生活にかなりの不安を抱えてのスタートとなり、コミュニティの場さえ不確実なものであり、情報機器の使用のサポートに加え心身面でのサポートの必要性もかなり大きいものであった。大学のフォローアップも受けながら、表現活動の制約や音声や映像の視聴についての注意事項を確認して、音楽科オンライン授業を実施した。

3) 授業評価

① 形成的評価

毎時間の教育活動における学修目標の達成の確認を行う評価は、以下の内容を実施した。

- ・毎時間の授業レポート提出（自己評価を含む）・・・図1
- ・レコーディング機能での録画による評価
- ・ブレイクアウトルームを活用したグループ活動の評価（アクティブラーニング評価）
- ・小テストの実施・・・チャット機能での記録評価、提出レポートへの記載評価
- ・Google フォームアンケートの実施

授業後に提出する授業レポートは、講義内容、演習内容、取り組みに対する自己評価の3項目を記述するものである。評価は、3項目への記入があること、講義内容についての記載があること、自己評価できる内容が記載できていることをポイントとしている。15回分のレポートを点数化した。(3点×15回=45点を15点に換算する。)更に、自己評価については、自分で点数評価するように改定した。評価の点数化は、自己の学習への取り組みを明確にして振り返ることができ、個々の自発的な学修改善において有効である。自己評価には授業取組評価と授業理解自己評価の2項目を追加し点数化することとした。(5点×15回=75点を15点に換算する。)対面授業においては、授業後にすぐ提出させており手書きレポートで、チェック後返却している。オンライン授業においては、Word形式でのレポートをメールにて提出させ、返信メールにてチェック内容を伝えた。

Zoomの機能のレコーディングやチャットを活用した小テスト形式の評価は、即時性があり容易に記録としても残せるため学生の理解度も把握しやすいものである。また、ブレイクアウトルームを活用したグループでの学修も展開することができアクティブラーニングの評価として取り入れることができた。Zoomの機能について十分に把握できていない面もあり、毎時間ごとのオンライン授業が手探りの状態であったため、効果的な活用までには至らなかったのが現実であった。

Google フォームアンケートの活用もシンプルな設問設定であれば作業効率を上げるものであるが、

リモートによる音楽科演習の一考察
 -Zoomを使った音楽の学修と評価-

レポート課題としては Word 形式でのレポート提出時のチェックとあまり効率的には変わらなかった。今回は音楽履歴調査などでの活用しかできなかった。評価における活用の利便性についてさらに研修を重ね、個別評価資料としていく検討していく必要がある。

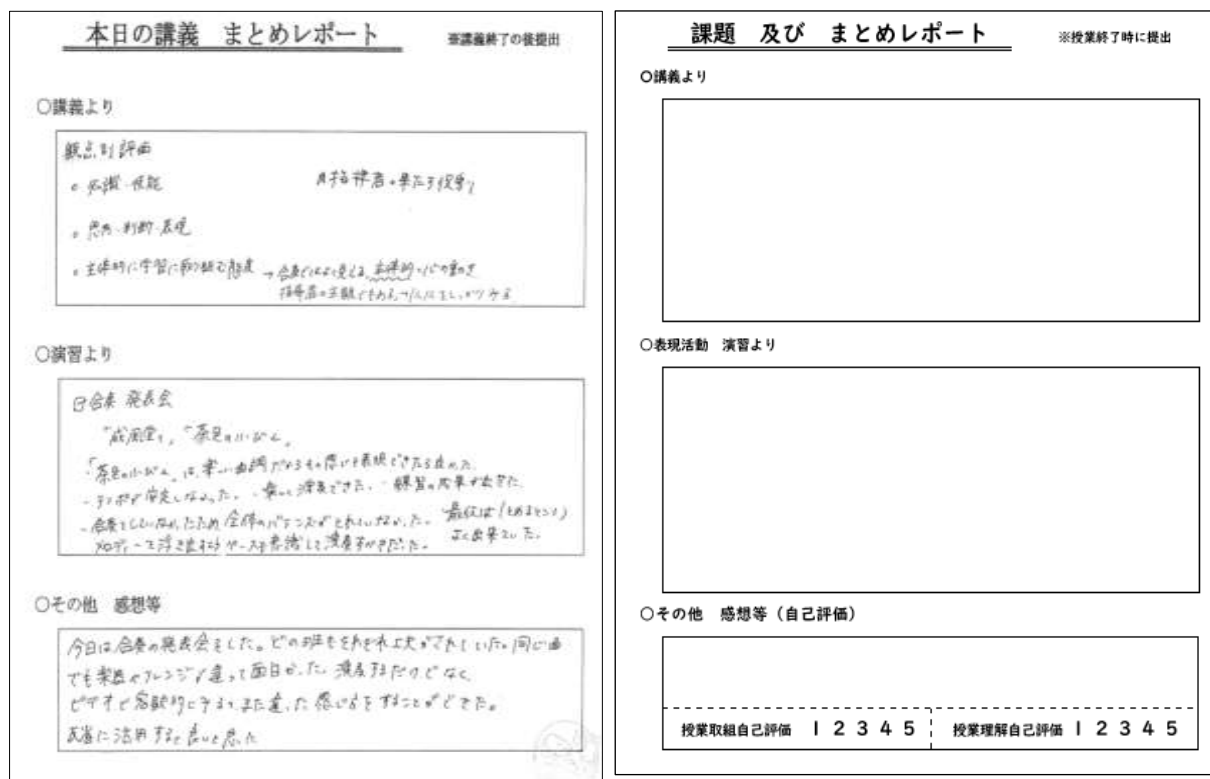


図1 学生の授業後レポート記述例・改訂したレポート課題

②総括的評価

学修成果を総合的、全体的に把握するための評価として、総括的評価を実施した。

実技試験やグループ演奏等は対面授業の際に実施していたため、オンライン試験で簡単リズム演奏の聞き取り試験も加えて実施し評価した。オンライン試験におけるガイドラインを学部長から学生に配信し、加えて音楽科における受験方法や記入における諸注意、試験の意義の確認、個々の不正行為を行わないようにする良心と自制心の必要性なども試験直前に連絡した。試験は、Word データの試験問題と解答用紙をメールで送信し、学生は指定された時間までに返送することとした。Zoom 映像でテストを受験している学生の様子を写させ、教員が観察をチェックしながら実施した。質問事項のやり取りはチャット又は音声で行った。学生によって Word ソフトのスキルに差があり、図表の崩れた解答が送られてくることも多かった。メールに解答が添付されていなかったり、ファイル名に学籍番号・氏名の記入漏れがあたりなど、答案用紙の確認作業や印刷にお時間を費やすことも多くあった。答案についての不正行為については、個別の問いとするような問題内容の工夫をすることや答案の内容をチェックすることで確認したが、十分には確認できないことが多かった。

オンライン授業の実施において教科内容の理解度を前期試験と後期試験の平均得点で比較してみると(表1)、1年生においては、前期試験より後期試験の方が紙面でのテスト、総合評定共に得点が上がっていた。2年生においては、あまり差異は見られなかった。1年生は、後期試験時においては、大

学生活への適応がなされてきたことや Word ソフトやメールのスキルなどの向上等が影響していると考えられる。

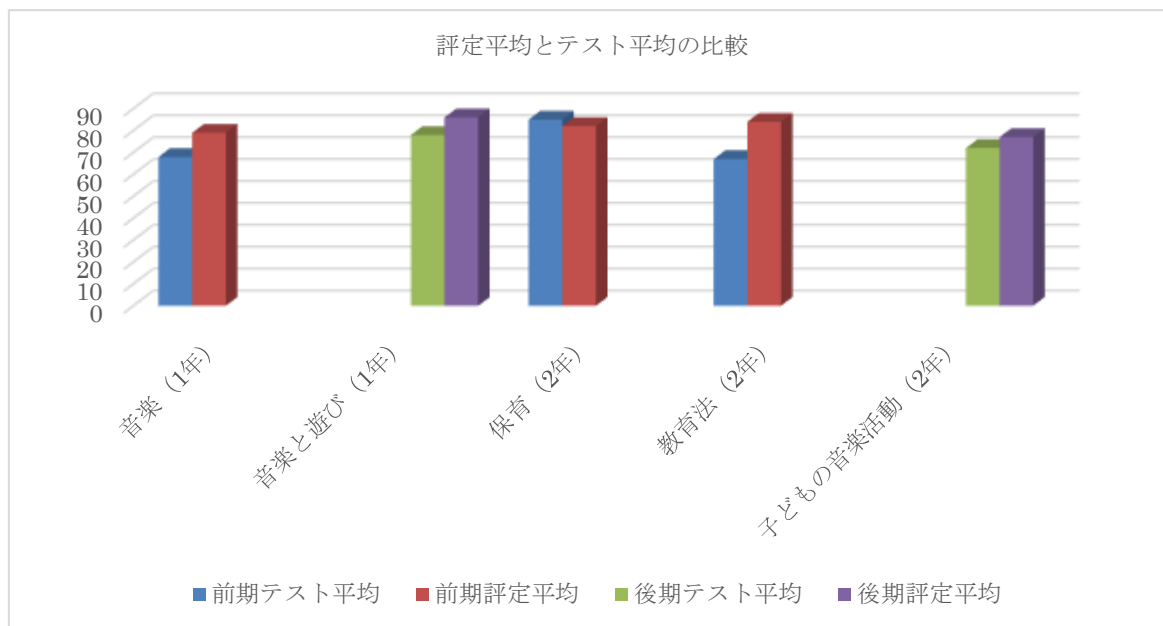


表1 「前期試験と後期試験における1年生、2年生の試験の平均点の比較」

(3) 講義、演習、実習の実際

【オンライン授業の実施状況】 図3

前期：オンライン授業：第1回～第6回、13回・・・実施率47%

対面授業：第7回～第12回

レポート提出対応：第14、15回

学期末試験：オンラインでの実施

後期：対面授業：第1回～第12回

オンライン授業：第13回～15回・・・実施率20%

科目	対象学年	受講人数	開講時期	オンライン授業
音楽	1年生	44名	前期	実施
音楽と遊び	1年生	45名	後期	実施
保育内容指導法（音楽表現）	2年生	33名	前期	実施
音楽科教育法	2年生	40名	前期	実施
子どもの音楽活動	2年生	53名	後期	実施
こども音楽療育 概論	2年生	28名	前期	実施
こども音楽療育 演習	2年生	27名	後期	実施
こども音楽療育 実習	2年生	27名	通年	数名を対象に実施
ピアノ声楽I	2年生	51名	前期	実施（非常勤講師）

リモートによる音楽科演習の一考察
 —Zoomを使った音楽の学修と評価—

ピアノ声楽Ⅱ	2年生	23名	後期	実施（非常勤講師）
ピアノ声楽Ⅲ	3年生	14名	前期	実施（非常勤講師）
ピアノ声楽Ⅳ	3年生	13名	後期	実施（非常勤講師）

表2 学期末試験：オンラインでの対応

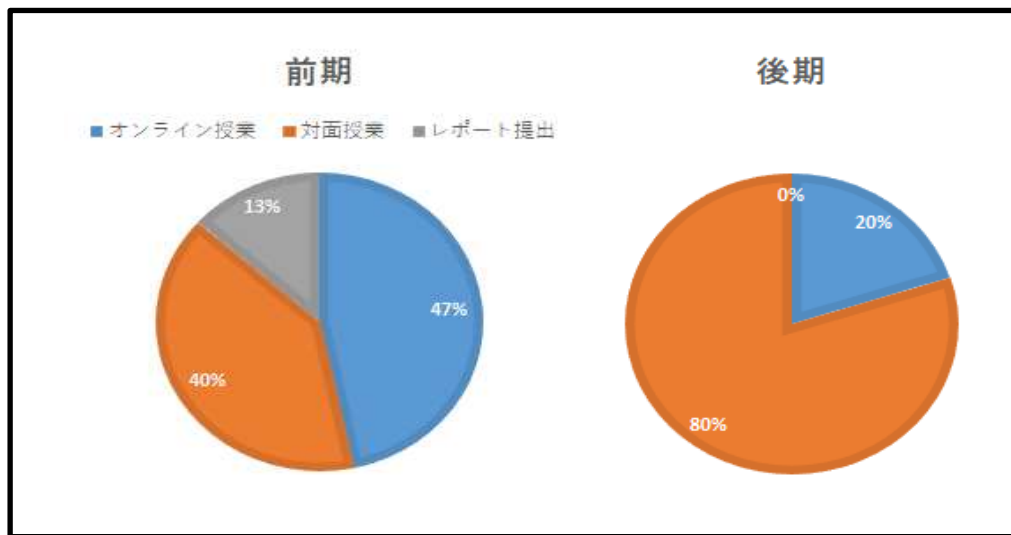


図3 令和2年度 音楽科関係のオンライン授業実施状況

【オンライン授業での教材と実際】

オンライン授業においては、①～④の例などの教材を使用した。

①教科書出版社の学習支援コンテンツ・・・教育出版、教育芸術社 等

小学校音楽科教科書を取り扱う出版社のホームページにおいて様々なインターネットでの教材提供がなされている。その教材に加えて、「新型コロナウイルス感染症対策としての音楽科の活動内容制限に関する対応や扱いにつきまして」として、学校現場の混乱に対し迅速に情報を提供していた。指導の際の留意点や対応例、指導計画の改善策など音楽の指導におけるサポートをしている。さらに「新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校休業期間中の音楽科教科書の著作権利用 Q&A」として教育出版音楽編集部から情報提供がされている。具体的な教材例としては下記のものがあり、「音楽科教育法」などの大学の講義の資料となり、学生への教材紹介として十分に活用できるものであった。視覚教材として理解を深めることができていた。

○教育出版：児童生徒用の学習支援コンテンツ

- ・ 金子健治先生のリコーダー講座～ソプラノ・リコーダー編
- ・ 楽器の基礎知識や奏法などを、写真、イラスト解説
- ・ 音楽よもやま話
 - 楽譜の書き方、その長い歴史の一部を Q&A 形式コラム
 - 楽器の並び方、指揮者による演奏の違いなど、Q&A 形式コラム
- ・ 作者からのメッセージ 教科書掲載楽曲について、それぞれの作者からのメッセージ (YouTube)
- ・ 個人用学習用ワークシート 教科書教材に合わせた個人学習用ワークシート 等

○教育芸術社 動画コンテンツ：YouTube 教芸チャンネル

- ・ コロナに負けない 歌わずに体を動かそう 青島広志と申します。～音楽特別講座♪
「村祭り」「手のひらを太陽に」「さんぽ」「メヌエット」「モーツァルト」「ベートーベン」
- ・ 絵や演技で音楽を表現しよう 青島広志と申します。～音楽特別講座♪
- ・ 青島広志と申します。～音楽特別講座♪
- ・ リズムリーディング 等

②NHK E テレ 「NHK for school おんがくブラボー」 小学3年生～6年生対象

NHK 教育番組で提供された学校放送としての番組では、「歌唱編」「器楽編」「鑑賞編」「音楽づくり編」のコンテンツ（図2）で児童の興味関心を高める質の高い内容の映像が提供されている。児童の集中力に合わせた様々な内容が展開されている。「音楽」「音楽科教育法」での取り扱い教材としたが、基礎知識の理解が深まり、学生の反応もよく、知識の定着も見られた。学生にその利用について学ぶ機会とするなど視覚的教材の有効活用ができていた。



図2 コンテンツ例

③インターネット：文化デジタルライブラリー、動画共有サービス（公式YouTube等）

文化デジタルライブラリーには日本の伝統芸能の保存及び振興を行う独立行政法人日本芸術文化振興会が運営するサイトであり、政府が推進する「教育の情報化プロジェクト」の一環として構想されたもので、優れた舞台芸術をより身近に触れる機会を手依拠することを目的とするものである。自主公演の上演情報や収録資料のデジタルアーカイブ、デジタル技術を活用した教育用コンテンツ（舞台芸術教材）から成り立っているものである。様々なコンテンツの中で、日本の音階を扱ったコンテンツにおいては画面上のキーボードにタッチし自分で音声を演奏できるようになっていたりして、双方向の教材として活用することができた。著作権の問題では、コンピューターの画面上で見られることを前提としていたため、学生それぞれで検索させ映像を確認させ、個人での学習時間として提供した。

また、公式YouTube等の動画供給サービスも活用した。Zoomでの映像の共有は音質や画質の問題が大きいためリンク先を提示し、学生それぞれに検索させ教材として活用した。新型コロナのために様々な影響を受けた音楽家たちの提供するコンテンツが多くあり、それらの映像を選択し鑑賞することで、文化的な背景の理解や演奏から感じられる心情など音楽をそれぞれに感受する教材として提供することができた。

「保育内容指導法（音楽表現）」の講義においては、幼児のあそび歌などの身体表現活動のコンテンツを活用して身体を動かす表現に取り組んだ。パソコンと向かい合う時間が多い中、気分転換と同時に、学生は孤独感はあるものの、それぞれ個別で身体活動を表現しながらも「画面を通して他の学生と楽しくつながっている感覚を感じる事ができた。」と感想をレポートに記述していた。音と映像

のタイムラグがあり、活動に違和感は感じられたが、学生の楽しそうな表情を見ることができた。仲間と音楽を共に感じて、音楽の良さを直接感じられることの大切さを実感することのできる体験となったようだ。学生にとって音楽の特性を体感できる機会とすることができた。

④学生個別発表・・・パワーポイントを作成した個人発表の実施

「こどもの音楽活動」や「音楽と遊び」においては、画面を共有し個別発表に取り組んだ。ZoomでのWi-Fiなどの音環境の問題やパワーポイントの作成スキルなどに学生によって差異はあったが、それぞれの楽曲に合わせて工夫された発表が見られた。2年生の「子ども の音楽活動」では、あそび歌の楽曲紹介の個人発表に取り組んだ。グループで楽曲の指導内容について意見交換など協議した後、個人で1曲ずつ楽曲紹介をZoomで実施した。旋律やリズム、身体表現を伝えるために演奏や動きを実演したり、録音、録画をしたりインターネット検索をした音源や映像をシートに張り付けたりして発表資料を工夫していた。図4は発表作品である。指導のねらいや指導の展開についてもしっかりとまとめられたものになっている。また、1年生の「音楽と遊び」では、音づけ絵本の読み聞かせの活動において、楽器の音や効果音を張り付けたパワーポイントを作成し発表していた。友だちの作品発表に刺激を受け、自分なりの工夫をして、よりよい発表しようとする意欲をもった学生も見られた。学生発表は、演習における形成的評価や総括的評価として評価へと繋げられるものであった。



図4 学生発表作品（パワーポイントスライド）例

【オンライン授業実践時における課題点】

①Zoom 設定

- ・ 機能の確認不足、活用技術の未熟さによって授業がスムーズに進行できなかった。
- ・ 音声の共有の方法の伝え方が十分にできず、個別発表のやり直しをすることがあった。
- ・ ミラーリングの設定において、画像の調整のとまどり指導場面で混乱したことがあった。
- ・ ブレイクアウトルームのグルーピングの方法や時間設定に不慣れであったことで、グループ学習の時間の確保が十分とれない場面があったが、学生の取り組みは良かった。
- ・ 音質の設定に限界があり、音質が劣悪であった。音楽指導に影響があった。
- ・ 画面の共有では、学生が見ている画面と指導者の画面の映像の動きが違うことがあり、視聴している学生の状況を確認できないまま進めてしまった。

②教材

- ・ 作成技術の未熟さのために、教材の質を保障できていないものがあった。
- ・ インターネットを活用した教材作成においては、膨大な情報量がある中で、教材としての価値を判断し厳選した他教材を作成したいと考えたが情報収集の十分な時間確保が難しく、情報取得が不足していたと感じた場面があった。
- ・ 著作権についての確認の必要性があったが、十分に確認できない場合があった。
- ・ 教材のコンテンツの確認不足によって教材の提供ミスをする場面があった。

③学生とのコミュニケーション

- ・ 受講学生の人数が多いと画面のシートが数枚の表示となり、学生の一人一人の画像も小さく、学生の状況を十分に把握できないこと場面があった。学生が映像を OFF にしたり、画面に学生がいない時間があつたりすることもあった。
- ・ 双方向での授業展開の計画が十分できず、学生全員との交流が十分できなかった。
- ・ 学生のチャットの表示に気づくのが遅れ、返答ができない場面があった。
- ・ 学生が提出する課題レポートでの自己評価を達成度評価として検証し、指導改善に活用できていなかった。

【ピアノ・声楽Ⅰ～Ⅳの取組】

音楽科のオンライン授業において「ピアノ・声楽Ⅰ～Ⅳ」の演習の取組は大きな課題であった。「ピアノ・声楽Ⅰ」2年生前期での必修科目で51名の学生が受講した。7名の非常勤講師の積極的な取組がなされた、事前のシュミレーションレッスンを実施して、その方法を検討し実施した。学生の環境調査を実施し、自宅で受講できるのか、学校での受講計画が必要であるかを確認した。鍵盤楽器が自宅では用意できなかった学生がいたため、大学において個別での教室を確保する必要があった。個別に受講できる器楽練習室やスタジオなどピアノが設置されている教室とキーボードの準備、設置をした。指導者用にも同様にレッスンをする部屋とパソコン、キーボードを確保した。レッスン前後に毎回設置、撤去を行った。レッスンを重ねていく中で、学生への指導の創意工夫もそれぞれの講師によってなされ、それらの情報も共有することができた。後期で受講対象学生数が減少したこともあり、個別のレッスン時間の確保ができ、トラブルへの対応も迅速にできるようになっていた。また非常勤講師は自宅からのリモートでのホームワークも実施することができ、様々な取り組み方

リモートによる音楽科演習の一考察
 —Zoomを使った音楽の学修と評価—

を検証することもできた。

実技試験もオンラインで実施した。前期試験では、対応について検討して、指導担当者それぞれがZoomを使っての個別評価を実施した。評価指標（図5）としては、実技試験に使用する評価指標を基本提示として提示し評価した。更に試験曲の歌詞についてのレポート課題、自己練習評価（図6）を採点し加えたものを総合評価とした。後期試験では、指導者が集まり、学生の演奏をZoomの映像で視聴して評価をした。歌詞の歌詞についてのレポート課題、自己練習評価を加え総合評価とした。

担当教員からは、直接的できめ細かな実技指導のような効果は得られにくく、音環境は劣悪だったが、取り敢えずレッスンはZoomでもできてよかったという感想があった。タイムラグやWi-Fiなどのインターネット環境がレッスンの指導内容に影響したことやグループでの模擬活動に取り組みなかったこと、共に聴き合う学び合いができなかったこと、音の環境改善を図っていく課題など、意見として挙げられていた。

評価指標		
学期末試験対応評価指標		
2020年度		
評価項目	評価指標	ポイント
演奏(Vocal)	A: 歌詞の内容や特徴を理解して歌うことができた。	10
	B: 発声や発音、声量などを工夫して歌うことができた。	8
	C: 表現技能がやや低いことができた。	6
	D: 発声や発音、声量が指導者としてやや不十分である。	4
	E: 発声や発音、声量が指導者として不足している。	2
弾き歌い	A: 曲想を込めて正確に伴奏し演奏することができた。	10
	B: 伴奏を正確に弾いて、弾き歌いできた。	8
	C: 伴奏を間違えたが、最後まで弾き歌いできた。	6
	D: 伴奏を間違えたが、練習で努力した様子が見られた。	4
	E: 最後まで演奏できなかった。	2
演奏技能 5: 優れている 3: よい 1: 不十分 0: できない (4段階で評価)	1: 拍子	1~5
	2: リズム	1~5
	3: テンポ	1~5
	4: 強弱	1~5
	5: アーティキュレーション	1~5
練習評価	各指導者が各段階で評価する。	1~5
	5: 大変よく練習に取り組んでいた。	
	4: よく練習に取り組んでいた。	
	3: 練習に取り組んでいた。	
	2: あまり練習に取り組めなかった。	
1: 練習に取り組めなかった。		

図5 実技試験 評価指標

ピアノ・声楽 自主練習・レッスン記録表			
※毎回、レッスン時に提出し、担当教員に確認してもらう。			
※15日経過後に担当教員より評価をもらい提出する。			
氏名	学番 番号	自主練習評価 (1は段階評価)	
演 習	自主練習記録 (練習回数) (練習時間合計) (練習評価)	レッスン曲・指導の記録 (レッスンを受けた曲名と指導内容を記入する。)	担当教員 確認
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

図6 自己練習記録表

3. 考察

音楽科におけるオンラインと対面での授業について、レポートや試験内容において「オンラインの音楽の発表における効果と課題をまとめなさい」「直接表現とリモート表現の音や動きについてその違いをまとめなさい」等の設問での解答や、授業レポート内でのアンケートからは、本学で実施された「コロナ禍の授業に対する影響調査」アンケートでのメリットとデメリットの意見と同じ内容のものが多く見られた。

メリットにおいては、パワーポイントやZoomなどの操作スキルの習得や教材作成の創意工夫がで

きたこと、友だちの発表や資料が刺激になったことなどが挙げられていた。また、視聴覚教材の提供によって理解度の向上が感じられたことや一人の空間で集中して学修に取り組み、様々な動きのある身体表現活動をしてもらえずに恥ずかしさもなく積極的に取り組むこともできたことなどが述べられていた。

デメリットにおいてはやはり、インターネットの音や映像のトラブルが多く挙げられていた。学生によってインターネットの環境に差があることも大きな課題とされている。Zoom や Word やパワーポイントなどの教材作成のスキルの不足や音環境に悪さや音や音楽の直接的な響きの体験的な学習がないことで感性的な理解が深まらないことも感じていた。コミュニケーションスキルの育成においても大きな課題があり、友だちと音や音楽での触れ合ったりや関わり合ったりすることが難しく、孤独感や寂しさ、焦燥感を感じている学生も多く見られた。

評価においては、形成的評価の評価指標を明確にして学生に提示し活用することで、学生は個々の課題を明確にし、問題解決の能力を高められる。個に応じた探求のプロセスを自ら見出せる指導内容の工夫による指導の充実が求められる。集団によるオンライン授業においてはこの活動が見えにくい場面が多い。個別の評価を明確にするための評価規準作成の検討が必要である。評価規準を学生に提示することによって、学修のねらいが明確になり、より意欲的な学修の取り組みがなされると考える。総括的評価においても様々な評価項目を工夫し、総合的な評価として提示していく必要がある。オンラインでしかできない評価の在り方を今後、早急に検討していかなければならない。

4. まとめ

前期においては、スタートからオンラインでの授業が実施され、途中から対面での授業を受講したことで、その大きな違いを体感した。学生達はそれぞれのメリットとデメリットを学び、自らの学修への創意工夫の必要性を感じていた。グループでの活動や様々な表現活動に意欲的に取り組む姿やレポートの内容からも、対面授業での学生の学びの深さを見ることができた。

新型コロナウイルス禍においては、変化する価値観の多様さにおいて、音楽の特性を生かして感性を育成する音楽科教育の存在意義をどのように求めていくのかが問われている。ICT 教育は、多様化する音楽への対応や双方向型オンライン授業の創意工夫の展開の可能性が音楽科においても大きく期待されるものである。リモート学修でできる教育内容を明確化し、確かな教材を提供していくことが求められている。本年1月に提示された中央教育審議会の答申には、「急激に変化する時代の中で育むべき資質能力」は「予測困難な時代」に「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな感性を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが必要である」とある。「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を目指していくものであり、可能性を広げていくために多様性のある指導の創意工夫が求められている。

筆者の講義テーマである「気づき 感じて つながり 響きあう」は、「音・音楽」に気づき 感じて 「音・音楽」とつながり 響きあうこと、「人」に気づき 「人」を感じて 「人」とつながり 響きあうこと、「音楽と人をつなぐ何か」に気づき、「音楽と人をつなぐ何か」を感じ、「音楽と人をつなぐ何か」とつながり、響き合うものである。そのテーマに沿って、大学教育における音楽科の役割について STEAM 教育などと関連させ再考し、ICT 教育を含む指導スキルの向上と教科指導の創意工夫、授業改善に取り組んでいくことが必要である。新学習指導要領での音楽的な見方・考え方は

リモートによる音楽科演習の一考察
—Zoomを使った音楽の学修と評価—

「音楽における感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」とある。多様な価値観の創造と文化理解を図っていくことを目指していける人材育成を求められていると考える。

《引用及び参考文献》

- 「小学校学習指導要領（平成 29 年度告知）解説 音楽編（平成 29 年 7 月）、文部科学省
文部科学省中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』中教審 228 号（令和 3 年 1 月 26 日）
教育出版「児童生徒用学習コンテンツ」 <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/important/2020/03/post-13.html> 2020.4 月～2 月.access
教育出版「教師向け指導資料」
新型コロナウイルス感染症対策のための小学校指導資料（令和 2 年度用）
新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校休業期間中の音楽教科書の著作物利用 Q&A
新型コロナウイルス感染症対策として音楽科の活動内容制限に関する対応や扱いにつきまして（小学校） <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/ongaku/document/ducu2/index.html>
2020.4 月～2 月.access
教育芸術社 動画コンテンツ「YouTube 教芸チャンネル」
<https://www.youtube.com/user/kyogei/playlists> 2020.4 月～2 月.access
「NHK for School おんがくブラボー」 <https://www.nhk.or.jp/school/ongaku/bravo/> 2020.4 月～2 月.access
「文化デジタルライブラリー」 <https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/> 2020.4 月～2 月.access